



# NEWS LETTER

VOL. 9  
JUNE 2019

HRC-GH

## WHOの人事政策

中谷センター長は、5月13日から5月31日までの間、WHO 総会及び執行理事会参加のためジュネーブに滞在し、人材に関する各種活動を行いました。その中で、WHO を志望されている方々への重要な情報を得ましたので速報します。

ポイントは；

### 1. 採用プロセスの変更

従前のプロセスに加え、足切りとして、ビデオ・インタビューで典型的な質問に答えるプロセスが追加されています。現時点では試行的に行われていますが、制度として定着する見込みです。テーマは、志望動機などの定型質問を想定していますが、テクニカルな質問もされる可能性があるため、真剣に取り組む必要があるとのことです。CV とビデオ・インタビューの上位成績者には、従来通り、選考委員会からコンピテンシー・ベースド・インタビュー（加えて小論文）が行われ、最終的には、地域・性別バランスなどを総合的に判断して採否が決定されます。

### 2. WHO 幹部人事

WHO 本部では組織改編が進められていますが、局長と部長人事の骨格が決まったため、これから凍結されていた幹部リクルートが進行する見込みです。新規部長公募は6月冒頭から始まると思われ、10～12位の部長ポストが公募される見込みです。公募期間はミニマムで3週間となるのが予想されますので、関心のある方は、情報を漏らさないように入材登録・検索システムに登録され、タイムリーな応募をお勧めします。その波が終わると、課長級（P5、P6）の補充が夏以降行われるとのことです。

### 3. インターン制度の改変

WHO は、途上国からのインターンを増やすことに熱意をもっており、彼らをサポートするために、受け入れ部局から所在地出張日当の20%相当額を徴収して（注；インターン本人ではなく受け入れ部局が払うことがミソ）それをプールして奨学金的に支給する方向で準備が進められています。この変更は、2020年1月から始まり、いずれHPで広報されるとのことですが、受け入れ部局は、自分の予算を使いますので、プログラムに具体的に貢献してもらってインターンを受けたいと願うはずですが、これにより、受け身で見学するだけではない質の高いインターン（少なくとも修士号取得者）が配置され、併せて、途上国からのインターンには援助がなされるという相互に利益がある制度設計になっているとのことです。ただ、我が国の大学学部あるいは修士課程学生のハードルは高くなります。また、WHO が受け入れる Volunteer も、研究休職（sabbatical）中の教員・研究者を受け入れるというイメージで改善が図られることとなります。

## ジュネーブ在住国際機関邦人職員向け説明会

日本政府代表部会議室をお借りし、15名の参加を得て在ジュネーブ国際機関邦人職員向けの説明会を開催しました。WHO 総会日本代表団長新谷正義（厚生労働政務官）主催の昼食会で、センター活動、特に、人材登録・検索システムの説明を行いました。



## 中谷センター長の WHO 執行理事会議長就任

執行理事会は34人の理事による執行機関で、WHO 総会を輔弼し、事務局を監督することを主な任務としています。中谷センター長は2019年5月より1年間この重責を担います。

## ■ 今後のイベントのお知らせ

Save the Dates

### 1. WHO 本部進藤進藤奈邦子医師による個別進路相談会

(6月24日)

進藤医師は、感染症・危機管理分野で活動を続けてこれ後進の養成にも熱心な方です。ご来日の機会に、当該分野で国際的な活動をされたい方への個別相談に応じていただけることとなりました。人材登録・検索システムに登録をされた方にまずお知らせしたところ、好評につき定員に達したため、締切とさせていただきます。

### 2. ワークショップの仮日程

2019年12月14日（土） 国際臨床医学会総会市民講座（福岡）  
2019年12月15日（日） Go UN ワークショップ（東京）

## ■ 人材登録のお願い

6月現在、約250名の方が人材登録・検索システムに登録されており、ご希望に応じた情報がマッチング・メールにて届くようになっていきます。人材登録・検索システムの使い方に関する動画も登録ページに掲載しています。今後、WHO における募集や各種お知らせが続きますので、未登録の方は、この際、登録されますようお願いいたします。

<https://hrc-gh-system.ncgm.go.jp/>

